

次号予告

特集 精神科作業療法の治療手技

絵画活動	神戸大・精神神経科	中井久夫
音楽活動	山梨大	松井紀和
手工芸活動	南小倉病院	広沢美佐子
スポーツ活動	青森・藤代建生病院	工藤政春
とびら 治療する側と治療される側の落差	長尾病院	服部一郎
講座 痛みの生理学		

8. 痛みに対する冷凍の応用と作用機序 … 関東通信病院 塩谷正弘
薬物療法の基礎知識

1. 神経系疾患	東大・老人科	江藤文夫
プロGRESS 分裂病の家族研究(家族システム論)	市原・鶴岡病院	牧原浩
リハビリテーション・精神薄弱者愛護協会		
インフォメーション 日本車イスバスケットボール連盟		
先天性四肢障害児父母の会		
青年海外協力隊		

あんてな IL 運動 … 障害者自立生活セミナー 磯部真教
雑誌レビュー “Physical Therapy” (1982 年版)

まとめ … 国療東名古屋病院付属リハビリ学院 上村孝司
資料 第18回理学療法士・作業療法士国家試験問題一模範解答(Ⅲ)

編集後記

初夏のみぎり、PT 学会、リハビリ医学学会、OT 学会が相次いで開かれ、学会のため忙殺されていた関係諸氏も多いと思う。

本号は内部障害を特集テーマとして取り上げ、その考え方も含めて執筆をお願いした。

砂原氏は、日本における障害概念の狭さ、障害分類の基本原則についての整理が不十分なため、いろいろと混乱を引き起こしていることを指摘し、いわゆる内部障害の重みについてグローバルな数字のもとに強調している。

障害についても、特に内部障害を疾病と対立した別のカテゴリーとして捉えないで、やまい、疾病に並んで病気の第3相として捉えて、役割の変化と価値の低下だとする立場をとっている。そして、そのリハビリの目標を役割と価値の回復においている。

PT, OT の技術も、障害のなかの handicap に目標をおいて、専門技術の駆使と創造に努力を傾注すべきだと注文しており、また、対象領域の拡大に留意すべきだとしている。

心筋梗塞の運動療法については、米国における運動療法を中心に、山田氏にお願いした。日本では、まだ未開拓の分野に近い心筋梗塞の作業療法について、主として ADL 訓練を中心にして古沢氏に執筆いただいた。OT の領域拡大に役立つことを願っている。

急性期の呼吸障害の理学療法について、外国での経験の豊富な荻原氏に、各種の疾患をとりあげて、そのそれぞれについて紹介していただいた。参考にすべき点が多くあり、今後の日本の領域拡大に役立つものと思う。

研究と報告もユニークなものがあり、期待されるところがある。研究と報告の投稿も増加しており、嬉しい悲鳴をあげるのも近いようである。講座の痛みシリーズもいよいよ佳境に入った。プロGRESS、あんてな、インフォメーション、資料、と内容的に今回は参考になるものが多い。

これからは梅雨時に入り、何かと体調を崩しがちである。諸氏の御自愛を祈る。

(松村 秩)

<編集顧問>

天児民和
九州労災病院名誉院長

五味重春
埼玉県障害者リハビリセンター所長

砂原茂一
国立療養所東京病院名誉院長

津山直一
東京大学教授・整形外科

水野祥太郎
川崎リハビリ学院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上田敏
東大リハビリ部

荻島秀男
ペインリハビリテーションクリニック高島平
整形外科

大喜多潤
兵庫県リハビリセンター

寺山久美子
都心身障害者センター

富岡紹子
信州大学医療技術短大

奈良勲
金沢大学医療技術短大

福屋靖子
筑波大学

松村秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

安達克己
池田俊雄

伊東元夫
宇都宮初幸

大丸幸翼
金子子

鎌倉矩子
紀伊克昌

木村信子
駒沢治夫

佐藤智明
嶋田明子

鈴木昌家
関正明

高橋正明
中屋久長

橋元隆
藤沢しげ子

矢谷令子
山下隆昭

(担当 細田・西塚)